学校番号	３１１

令和３年度　情報科

教科	情報	科目	情報産業と社会	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	『情報産業と社会』　（実教出版）						
副教材等	使用しない						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「情報産業」や「情報社会」に関連するさまざまな知識を学習しましょう。

「情報技術」をうまく活用するためのスキルを身に付けましょう。

情報社会の概要を理解し、その成果を今後の学習や将来の進路の選択に活かしましょう。

予習・復習は各自で適切に行い、授業準備を怠らないようにしましょう。

２　学習の到達目標

この科目のねらいは、情報化と情報産業の発展が現代社会にどのように影響し、どのような変化をもたらしているかを理解させることによって、情報産業に興味と関心を高めさせることである。

また、情報技術者として情報に関する幅広い視野を身に付け、情報や情報手段を適切かつ効果的に扱うなど、情報活用能力を習得させ、情報産業の発展に寄与する能力と態度を育成することである。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	情報の各分野に関する諸課題について関心をもち、その改善･向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに､実践的な態度を身に付けている。	情報の各分野に関する諸課題の解決を目指して思考を深め､基礎的･基本的な知識と技術を基に､情報産業に携わる者として適切に判断し､表現する創造的な能力を身に付けている。	情報の各分野に関する基礎的･基本的な技術を身に付け、情報の各分野に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	情報の各分野に関する基礎的･基本的な知識を身に付け、現代社会における情報及び情報産業の意義や役割を理解している。
評価方法	授業への取り組み態度 実習で制作した課題 発表 自己評価・相互評価	授業への取り組み態度 実習で制作した課題 発表 自己評価・相互評価	授業への取り組み態度 実習で制作した課題 発表	授業への取り組み態度 実習で制作した課題 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	情報科と社会	社会の情報化 情報産業の進展と役割 情報産業と情報モラル		 ○ ○	○	○ ○ ○	c:情報社会で生きるための情報と情報処理、私たちの生活と情報化について理解できる。 d:過去から現在に至るまでの情報伝達の変遷を理解できる。 b:進化し続ける情報社会の未来について考察できる。 d:情報技術に関連するさまざまな情報産業の種類と役割について理解できる。 d:情報技術者の役割について理解できる。	授業観察 実習作品 小テスト
2学期	情報産業と情報技術	情報技術の基礎 情報技術の活用	 ○	 ○	 ○	○	d:コンピュータ内で扱われるデータ表現について理解できる。 d:コンピュータを取り巻くハードウェアについて理解できる。 d:ソフトウェアの役割と分類、ファイルについて理解できる。 d:ネットワークや情報通信システムの形態や仕組みについて理解できる。 a:情報の分類と情報収集方法について理解できる。 b:収集した情報の処理とその分析方法について理解できる。 c:情報をわかりやすく伝達するための表現方法について理解できる。 c:情報発信の手段としてのプレゼンテーション資料作成方法について理解できる。 c:作成したプレゼンテーション資料の情報発信法を理解できる。	授業観察 実習作品 小テスト

3学期	情報産業と情報モラル	情報技術者の義務と責任 情報モラルと情報セキュリティ		○ ○	○	○ ○	c:情報技術者の社会人としての常識やマナーを理解できる。 d:情報技術者の義務や責任、職業倫理について理解できる。 b:情報社会の問題点について理解できる。 b:個人情報とその取り扱いについて理解できる。 b:情報を扱うものとして生活をする上での道徳や倫理について理解できる。 d:コンピュータを取り巻く情報機器、システムを守るための情報セキュリティについて理解できる。 b:情報産業にかかわる知的財産権など、情報産業にかかわるさまざまな法規について理解できる。	授業観察 実習作品 小テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。